

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会
CISPR H 作業班 (第 2 回) 議事要旨 (案)**

- 1 開催日時：平成 24 年 8 月 29 日 (水) 14 時 55 分～16 時 35 分
- 2 開催場所：総務省 10 階 1001 会議室
- 3 出席者 (順不同)

【構成員】 徳田主任 (東京大学)、松本主任代理 (NICT)、雨宮構成員 (NTT-AT)、尾上構成員 (NHK)、篠塚構成員 (NICT)、垂澤構成員 (NTT ドコモ)、三塚構成員 (TELEC)

【事務局】 臼井電波監視官、黒田電磁障害係長、下谷 (総務省)

4 議事概要

- (1) 事務局から配付資料の確認が行われた。
- (2) 資料 2-1 前回議事要旨案について、修正意見等あれば 1 週間以内に事務局まで連絡することとで、承認された。
- (3) 資料 2-2 CISPR バンコク会議 SC/H 対処方針 (案) 及び資料 2-3 CISPR バンコク会議 SC/H WG1 対処方針 (案) について、松本主任代理から説明があり、以下の議論の後承認された。

○徳田 主任：150kHz 以下に対する許容値等についての CISPR 文書が回付されていたが、測定法については検討を開始するが、製品規格には当面適用しない旨の内容であった。CISPR としては SC77A の WG8 にセクレタリをリエゾンメンバーとして参加させるということになっているようだが。

雨宮構成員：運営委員会会議内で議論となり、CISPR としてはセクレタリを SC77A に送り込むことになったようだ。

CISPR の保護すべき対象としてスマートメーターを入れた場合、スマートメーターの通信は無線だけではないことから有線機器についても対象として 150kHz 以下から開始してはどうかという議論があった。そこで CISPR 内各国 NC に意見を求めた結果、反対が多数となり、CISPR 議長が「過半数ではないので当面静観する」というスタンスを取った。しかし CISPR 内での議論では CISPR がやらなくて誰が検討するのかという話があり、測定法の検討を開始することとなった。

徳田 主任：SC77B と CISPR/SC-A とは JTF として前々から続いているが、今回の件についてはリエゾンで対応した方が良いのではと判断されたようである。

雨宮構成員：CISPR/SC-I では測定法も考えなければいけないが、許容値をどうするかということが大きな課題。被害を受ける機器としてスマートメーターを考えると、メーターの電源線とメーターが使う無線機器のアンテナとの空間

の状態が問題となる。様々な実験とデータを取得していかないとそう簡単には許容値は決まらないという状況である。

○両宮構成員：SC-H 対処方針の項目6で測定系の不確かさに関する記述について、昨年の CISPR ソウル会議総会において、文書の内容が審議され決定した表現を新しく発行する CDV や FDIS に入れるということになっているが、SC-I ではその文章の内容のみで許容値に対する適合確認は出来ないということを手張してきている。

松本主任代理：この項目6で言っているのは、測定系を決めればどんな EUT を適用しても同じ不確かさが生じるというもの。もう1つは測定機器そのものが出している妨害波が持つ不確かさの扱いをどうするかというものである。逆に共通エミッション規格ではどのような EUT か不明なので対応のしようがないというところがある。

徳田 主任：製品委員会の方も修正する動きではなかったか。

両宮構成員：全ての製品委員会で条件が同じとは限らない。通信などでは通信路の条件が変わると妨害波が大きく変わる。そのような条件の検討を飛ばして不確かさの定義を決められるのは乱暴な議論ではないかということで、SC-I では不確かさに関する文章の再考についてのコメントを検討している。

(4) 資料2-4 CISPR バンコク会議 SC/H 関連会議参加者(案)について、特に異議なく承認された。

(5) 資料2-5 CISPR/1236/DC 審議表案について松本主任代理から説明があり、以下の議論を踏まえ、松本主任代理にて審議表案を修正し、電波利用環境委員会にて審議頂くこととなった。

○徳田 主任：提示されている選択肢の中に、CISPR の TC レベルでという話があるが、TC は CISPR であるが、CISPR/S に WG を設置するということなのだろうか。現在、CISPR/S にスマートグリッドの WG が設置されているが、それと同じような位置づけになるのだろうか。

松本主任代理：文章を読むと CISPR/S と密接にとあるので、おそらくそういった意味だろうと思われるが、詳しいことは不明である。

徳田 主任：SC-H は元々 CISPR/S の WG1 として活動しており、その後 SC-H が設立された経緯があることから、以前の体制に戻るようなことだろうと思われる。

○篠塚構成員：業務水準の低い小委員会を減らすという SMB の意向があるとされているが、何かそういう文書が出ているのか。

両宮構成員：SMB の文書で多く見受けられる。各委員会、小委員会の活動状況が一覧表のように示されている。

徳田 主任：より活動を活性化せよということではなく、活動していない委員会、小

委員会は削減せよということのようだ。

雨宮構成員：IEC の中では、親委員会へ統合せよという話もよく出ている。

徳田 主任：SC-H では少し前に共通規格も出しており、IEC の中で言われる不活発な小委員会には当てはまらないだろう。

○徳田 主任：もし SC-H を解散した場合、共通エミッション規格のメンテナンスと製品委員会の提案のチェックは CISPR/S の WG のミッションでもいいのではないかと思うが、許容値及び測定法の根拠については、SC-A の中で WG 等を設置して検討していくべきではないかと思う。

(8) 次回会合は未定。

以上